



平成29年8月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月13日

上場会社名 アクサホールディングス株式会社
 コード番号 3536 URL <http://www.axas-hd.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 久岡 卓司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 細見 克行

TEL 078-335-8844

四半期報告書提出予定日 平成29年7月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期第3四半期の連結業績(平成28年9月1日～平成29年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|--------|-----|------|------|------|-------|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 29年8月期第3四半期 | 10,689 | 1.1 | 246 | 96.8 | 171 | 116.9 | 251 | 61.6 |
| 28年8月期第3四半期 | 10,571 | | 125 | | 78 | | 654 | |

(注) 包括利益 29年8月期第3四半期 259百万円 (60.1%) 28年8月期第3四半期 652百万円 (%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年8月期第3四半期 | 8.53 | |
| 28年8月期第3四半期 | 26.91 | |

当社は、平成28年3月1日設立のため、平成28年8月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|-------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 29年8月期第3四半期 | 11,135 | 1,314 | 11.8 | 44.27 |
| 28年8月期 | 10,389 | 1,016 | 9.8 | 35.10 |

(参考) 自己資本 29年8月期第3四半期 1,314百万円 28年8月期 1,016百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年8月期 | | | | 2.00 | 2.00 |
| 29年8月期 | | | | | |
| 29年8月期(予想) | | | | 1.00 | 1.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成28年8月期期末配当金の内訳 普通配当1円00銭 記念配当1円00銭

3. 平成29年8月期の連結業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|-----|------|------|------|-------|-----------------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 14,671 | 3.7 | 238 | 52.4 | 136 | 130.6 | 194 | | 6.72 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 29年8月期3Q | 32,258,453 株 | 28年8月期 | 32,258,453 株 |
| 期末自己株式数 | 29年8月期3Q | 2,555,100 株 | 28年8月期 | 3,298,000 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 29年8月期3Q | 29,455,720 株 | 28年8月期3Q | 24,320,151 株 |

(注)前第3四半期連結累計期間の期中平均株式数は、当社が平成28年3月1日に株式移転によって設立された会社であるため、会社設立前の平成27年9月1日から平成28年2月29日までの期間につきましては、アクサス株式会社の期中平均株式数に株式移転比率を乗じた数値を用いて計算しております。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 7 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 7 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 7 |
| (セグメント情報等) | 8 |
| (重要な後発事象) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成28年9月1日から平成29年5月31日）のわが国の経済は、中国をはじめとするアジア新興国の所得拡大等でこれまで2桁の伸びを維持してきた訪日外国人客数の増勢に陰りが見え始め、中国の税制変更や訪日外国人の「モノ消費からコト消費へ」といった消費行動の急速な変化等により1人当たりの消費額も大幅に減少し、インバウンド需要が頭打ち傾向となるなど景気を下押しする影響が見られ、欧州の政治情勢や近隣諸国の政情不安など海外情勢の先行き不透明感は強まり、社会保険料等の増加に伴う可処分所得の伸び悩みにより消費者の節約志向が依然根強く残る一方で、少し価格が高めでも「健康」や「安全」といった価値重視の消費が一部で見られるようになった経済環境のなか、当社グループは、お客様の日常から最も近いところから「本当にいいものや必要とされるものを見極める感性を磨き続け、良質な提案をスピーディーにお届けすること」を最重要使命とし、グループ全体でお客様、そして地域社会の「生活文化の質的な向上」を美・健康・ゆとりの側面から応援し、顧客満足、社員満足を高めていくことで会社満足も高め、これら3つの満足によってグループ価値のさらなる向上に努め、株主様、取引先様をはじめとするすべての関係者の皆様への利益還元と社会貢献の実現を目指しております。

具体的には、平成28年9月に国内外、ジャンルを問わず「楽しい」をテーマにセレクトした商品を自由気ままに選んでいただけるアレックスコンフォートNU茶屋町プラス（大阪市北区）と、本格的なキャンピングギア・ウェア・バック等を多数取り揃え、フィールドドライブをワンランクアップさせるG o G o C A M P（ゴーゴーキャンプ）をデコール川内店（徳島県徳島市）内に併設・運営開始いたしました。また、平成29年2月において定期建物賃貸借契約期間満了に伴いアレックスコンフォートラツ津（三重県津市）を閉店いたしました。そして、同年4月には「ONからOFFまで、自分らしいライフスタイルをトータルにコーディネート」をテーマに生活雑貨、食品、酒類、コスメを中心にハイブリッドした幅広い商品展開を行なうアレックスコンフォートピエリ守山（滋賀県守山市）を開店いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間末におけるグループ店舗数は、35店舗となりました。

なお、第1四半期連結会計期間において、販売費及び一般管理費において一時的な追加監査報酬として10百万円を支払手数料に計上しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの業績につきましては、売上高は10,689百万円（前年同期比1.1%増）となり、営業利益は246百万円（前年同期比96.8%増）、経常利益は171百万円（前年同期比116.9%増）となりました。固定資産売却益95百万円の特別利益及び法人税等を加えまして、親会社株主に帰属する四半期純利益は251百万円（前年同期比61.6%減）となりました。

セグメント別業績は次のとおりであります。

①小売事業

小売事業につきましては、ヘルス&ビューティーケア事業部では、引き続き価格訴求型広告やテーマに沿った季節の商品、話題の新商品やこだわりの商品等の価値や使い方を訴求した商品提案型広告の反応が良く、特に化粧品部門と日用品部門が堅調に推移し、その結果事業部既存店ベースで客数が前期実績を上回りました。

ライフスタイル事業部では、食品・ワイン販売の強化や「より身近に、よりカジュアルに」お客様のライフスタイルに寄り添うことをテーマに売場レイアウトを変更いたしました。また、文具館各店ではホームキーパー事業部の商材及び特価商材を導入したことなどにより客単価が増加し、事業部既存店ベースで売上高、売上総利益が前期実績を上回りました。また、4月にオープンしたアレックスコンフォートピエリ守山も好調に推移しております。

アスレ事業部では、アレックススポーツ沖浜店は3月に行われた徳島マラソンをターゲットにしたイベントを多く盛り込み成果があったものの、5月に実施したテントセールが振るわず、また野球、サッカー等競技系部門が不振で業績を押し上げるまでには至りませんでした。一方、アレックススポーツブルメール舞多聞店は施設の吸引客を確実にキャッチすることで、客数はじめ売上高、売上総利益が前期実績を大幅に上回りました。アウトレックス2店舗については、シューズ系アイテム、スウェット系アイテムの販売が好調で売上総利益が前期実績を上回りました。

アルコ事業部では、主要部門である酒類部門が、近年の健康志向・健康意識の高まりや若者の飲酒離れの影響等により前期より売上高が減少しているものの、3月末にアワーリカー各店舗に日本酒セラーを導入・設置し、日本酒やワインなどのセラー商品の販売強化を図ったことや6月からの酒税法改正に伴う酒類の安売り規制施行前のビール系飲料の駆け込み需要などがあり、また食品部門では、イタリアフェア、北海道フェアやグロッサリー新商品の提案企画で試食販売の強化したことにより売上総利益率と客単価が前期実績を上回りました。

ホームキーパー事業部は、広告掲載商品の増加を推進することで、販促における効果向上を図りましたが、主力である園芸部門にて3月の気温上昇の遅れの影響により販売が低調であったことから、売上高、売上総利益ともに押し上げるまでには至りませんでした。また、住宅設備部門ではデコール沖浜店及び川内店のリフォ

ーム工事受注、スポーツバイク部門では入門用ロードバイクやクロスバイクの販売が堅調であったことから、同部門の売上高については前期実績を上回りました。

これらの結果、売上高は7,805百万円（前年同期比1.0%減）、セグメント利益は440百万円（前年同期比18.6%増）となりました。

②卸売事業

卸売事業につきましては、引き続きラグジュアリー要素の強いシャンパンと呼ばれるスパークリングワインとプレミアムスコッチウイスキーが好調に推移し、売上高、売上総利益ともに前期実績を上回りました。また、当第3四半期連結累計期間においては、オリジナル品のウイスキーを中心に積極的に展示会へも出展し、商品の認知度の向上とともに、売上増加の傾向にあります。

これらの結果、売上高は2,804百万円（前年同期比4.0%増）、セグメント利益は167百万円（前年同期比49.0%増）となりました。

③その他

当セグメントには不動産賃貸事業等の売上高が含まれております。当第3四半期連結累計期間の売上高は266百万円（前年同期比45.3%増）、セグメント利益は71百万円（前年同期比2.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は11,135百万円（前期末比7.2%増）となり、前連結会計年度に比べ746百万円増加しました。これは主に、現金及び預金43百万円、たな卸資産499百万円、有形固定資産358百万円等の増加に対し、未収還付法人税等26百万円、その他流動資産99百万円、無形固定資産31百万円等の減少によるものであります。

負債合計は9,820百万円（前期末比4.8%増）となり、前事業年度末に比べ447百万円増加しました。これは主に、買掛金84百万円、短期借入金970百万円、長期借入金351百万円等の増加に対し、1年内返済予定の長期借入金930百万円、未払金46百万円等の減少によるものであります。

純資産合計は1,314百万円（前期末比29.4%増）となり、前事業年度末に比べ298百万円増加しました。これは主に、子会社の保有する親会社株式（自己株式）の処分による資本剰余金59百万円の増加及び自己株式37百万円の減少並びに親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金251百万円の増加に対し、配当金の支払による資本剰余金64百万円の減少等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は11.8%（前期末比2.0ポイント増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年8月期の通期業績予想（平成28年9月1日から平成29年8月31日）につきましては、当四半期決算短信提出日現在におきまして、平成28年10月17日付「平成28年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表後、平成28年10月28日付「（訂正・数値データ訂正）「平成28年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」の一部訂正について」にて訂正を公表した予想から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成28年8月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年5月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 997,909 | 1,041,520 |
| 売掛金 | 452,784 | 436,053 |
| たな卸資産 | 3,405,237 | 3,904,975 |
| 預け金 | 142,048 | 141,848 |
| 繰延税金資産 | 111,068 | 111,068 |
| 未収還付法人税等 | 26,859 | — |
| その他 | 265,180 | 165,200 |
| 貸倒引当金 | △7,486 | △3,669 |
| 流動資産合計 | 5,393,602 | 5,796,999 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,437,010 | 1,521,015 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 1,401 | 11,451 |
| 什器備品(純額) | 161,224 | 144,908 |
| リース資産 | 4,175 | 1,643 |
| 土地 | 2,523,850 | 2,811,069 |
| 建設仮勘定 | 10,321 | 6,746 |
| 有形固定資産合計 | 4,137,983 | 4,496,833 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 30,296 | 30,296 |
| ソフトウェア | 100,034 | 70,555 |
| リース資産 | 3,573 | 1,307 |
| 電話加入権 | 7,821 | 7,821 |
| 無形固定資産合計 | 141,726 | 109,981 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 96,069 | 113,489 |
| 敷金及び保証金 | 588,951 | 577,597 |
| 破産更生債権等 | 8,591 | 8,475 |
| その他 | 34,354 | 43,409 |
| 貸倒引当金 | △12,152 | △11,278 |
| 投資その他の資産合計 | 715,813 | 731,693 |
| 固定資産合計 | 4,995,523 | 5,338,508 |
| 資産合計 | 10,389,126 | 11,135,507 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成28年8月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年5月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 691,280 | 775,686 |
| 短期借入金 | 4,800,000 | 5,770,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,241,588 | 311,104 |
| リース債務 | 45,631 | 32,506 |
| 未払金 | 254,168 | 207,839 |
| 未払法人税等 | 15,196 | 15,769 |
| 資産除去債務 | 6,500 | — |
| 賞与引当金 | 26,300 | 49,824 |
| ポイント引当金 | 22,009 | 20,639 |
| その他 | 72,021 | 70,550 |
| 流動負債合計 | 7,174,696 | 7,253,919 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,685,771 | 2,037,444 |
| リース債務 | 28,861 | 7,841 |
| 受入保証金 | 255,186 | 275,550 |
| 資産除去債務 | 106,859 | 106,940 |
| 役員退職慰労引当金 | 7,425 | 18,112 |
| 金利スワップ負債 | — | 13,103 |
| その他 | 113,812 | 107,627 |
| 固定負債合計 | 2,197,916 | 2,566,621 |
| 負債合計 | 9,372,612 | 9,820,541 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 50,000 | 50,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | — | 6,451 |
| その他資本剰余金 | 3,556,791 | 1,731,915 |
| 資本剰余金合計 | 3,556,791 | 1,738,366 |
| 利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | △2,451,789 | △380,652 |
| 利益剰余金合計 | △2,451,789 | △380,652 |
| 自己株式 | △164,900 | △127,755 |
| 株主資本合計 | 990,102 | 1,279,959 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 26,410 | 35,006 |
| その他の包括利益累計額合計 | 26,410 | 35,006 |
| 純資産合計 | 1,016,513 | 1,314,966 |
| 負債純資産合計 | 10,389,126 | 11,135,507 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 10,571,940 | 10,689,386 |
| 売上原価 | 7,878,235 | 7,890,414 |
| 売上総利益 | 2,693,704 | 2,798,972 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 給料及び手当 | 772,936 | 863,199 |
| その他 | 1,795,636 | 1,689,552 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 2,568,572 | 2,552,752 |
| 営業利益 | 125,131 | 246,219 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 2,385 | 667 |
| 受取配当金 | 876 | 716 |
| 受取保険金 | 2,733 | 5,874 |
| 保険解約返戻金 | 23,866 | — |
| その他 | 21,131 | 9,082 |
| 営業外収益合計 | 50,992 | 16,341 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 90,656 | 67,410 |
| 為替差損 | 2,134 | 5,659 |
| 金利スワップ評価損 | — | 13,103 |
| その他 | 4,369 | 5,112 |
| 営業外費用合計 | 97,160 | 91,286 |
| 経常利益 | 78,963 | 171,275 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 1,229 | 95,188 |
| 段階取得に係る差益 | 613,428 | — |
| 特別利益合計 | 614,657 | 95,188 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 15,583 | — |
| 閉店損失 | 6,840 | 1,298 |
| その他 | 5,558 | 274 |
| 特別損失合計 | 27,981 | 1,572 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 665,639 | 264,890 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 15,066 | 15,884 |
| 法人税等調整額 | △3,772 | △2,194 |
| 法人税等合計 | 11,294 | 13,689 |
| 四半期純利益 | 654,345 | 251,200 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 654,345 | 251,200 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 654,345 | 251,200 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △2,245 | 8,595 |
| その他の包括利益合計 | △2,245 | 8,595 |
| 四半期包括利益 | 652,099 | 259,796 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 652,099 | 259,796 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当社連結子会社であるアクサにおける親会社株式の売却について、平成28年11月29日開催の取締役会において決議のうえ承認いたしました。これに伴い、同日開催のアクサの取締役会において親会社株式の売却が決定されました。アクサは、これらの取締役会決議に基づき、平成28年12月27日付で保有する親会社株式742,900株の売却を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が59百万円増加し、自己株式が37百万円減少しております。

なお、株主資本の合計金額に影響が無い株主資本間の振り替えとして、当社は、平成28年10月12日開催の取締役会において、前事業年度末における個別貸借対照表上の利益剰余金欠損額を補填解消し、機動的かつ柔軟な資本政策を実現することを目的とし、その他資本剰余金をその他利益剰余金に振り替えることを決定いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が1,818百万円減少し、利益剰余金が1,818百万円増加しております。

上記事項にその他の変動も含め、当第3四半期連結累計期間末において資本剰余金は1,738百万円、自己株式は127百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年9月1日至平成28年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 財務諸表計 上額 (注) 3 |
|-------------------|-----------|-----------|------------|--------------|------------|--------------|----------------------|
| | 小売事業 | 卸売事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 7,880,139 | 2,508,649 | 10,388,789 | 183,150 | 10,571,940 | — | 10,571,940 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 330 | 186,499 | 186,829 | — | 186,829 | △186,829 | — |
| 計 | 7,880,470 | 2,695,148 | 10,575,619 | 183,150 | 10,758,770 | △186,829 | 10,571,940 |
| セグメント利益 | 371,475 | 112,450 | 483,926 | 73,179 | 557,106 | △431,974 | 125,131 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△431,974千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」において、4店舗について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において15,583千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

当社は、平成28年3月1日にアクサとACリアルエステイト(当時雑貨屋ブルドッグ)が、共同株式移転の方法により両社を完全子会社とする株式移転設立親会社として設立されました。本株式移転により発生したのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において2,753,142千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年9月1日至平成29年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 財務諸表計 上額 (注) 3 |
|-------------------|-----------|-----------|------------|--------------|------------|--------------|----------------------|
| | 小売事業 | 卸売事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 7,805,401 | 2,618,164 | 10,423,565 | 265,821 | 10,689,386 | — | 10,689,386 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 3 | 185,995 | 185,999 | 214 | 186,213 | △186,213 | — |
| 計 | 7,805,405 | 2,804,159 | 10,609,564 | 266,035 | 10,875,600 | △186,213 | 10,689,386 |
| セグメント利益 | 440,601 | 167,599 | 608,200 | 71,226 | 679,427 | △433,207 | 246,219 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△433,207千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損又はのれんに関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

シンジケートローン契約について

当社の連結子会社であるアクサスは、安定的かつ資金需要に応じた機動的な経常運転資金調達手段を導入することで、財務の健全性を確保するとともに、今後出店による経常運転資金増加等の事業環境の変化に即応した施策の実行を可能にすることを目的として、下記金融機関とシンジケーション方式によるコミットメントライン契約を更新しております。

1. 借入先の名称

株式会社四国銀行、株式会社阿波銀行、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社みずほ銀行、株式会社百十四銀行、株式会社伊予銀行、株式会社香川銀行、株式会社中国銀行

2. アレンジャー

株式会社四国銀行、株式会社阿波銀行、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社みずほ銀行

3. コミットメントラインの総額

73億円

4. 契約締結日

平成29年6月26日

5. コミットメント期間

1年間（平成29年6月26日から平成30年6月25日まで）

6. 財務制限条項

平成29年8月期決算以降、各年度の決算期の末日におけるアクサ単体の貸借対照表上の純資産の部の金額から有価証券評価差額金（アクサスが保有する当社株式の評価益・評価損又はその処分に関して発生した損益部分。以下同様。）の金額を控除した金額を前年決算期末日におけるアクサ単体の貸借対照表上の純資産の部の金額から有価証券評価差額金の金額を控除した金額の75%以上に維持すること。

平成28年8月期決算以降の連続する2期について、各年度の決算期におけるアクサ単体の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。